

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。



社会福祉法人

小羊学園

〒433-8105

静岡県浜松市北区三方原町 2709-12

電話：053-414-1833 FAX：053-438-7707

E-mail square@kohitsuji.or.jp

H.P http://www.kohitsuji.or.jp/

発行人：稲松 義人

印刷所：S R S株式会社

定 価：一部 30 円

2014年 7月 20日

第 374 号



自らの弱さを知って

「弱さ」に寄り添うこと

理事長 稲松 義人

8月4日の中日新聞夕刊二面の「児童虐待7万件突破」という大見出しが目を引きました。どのようなケースが「虐待」なのかは微妙なところがあると思いますが、小羊学園で相談を受けると子どもたちのことを思い浮かべても、かなり身近な問題になってきていると感じています。実際には、新聞で報道される発生件数の急増は、実数が増えたというよりは、今までは明るみにならなかったものが件数としてカウントされるようになってきたということではないかと思っ

ています。現実には、今も辛い境遇に生きています。子どもたちのことを考えると、一刻も早く、この深刻な社会問題の根っこを断つような対策が進められることを願うとともに、また私たちもその役割の一端を担う覚悟が必要だと感じています。

わたしが施設長をするマルカート(生活介護事業所)では毎月の会議でミニ研修をしており、先日、「障害者虐待防止法」について一緒に考えました。児童虐待防止法、高齢者虐待防止法に続いて2011年には障害者虐待防止法が制

定されており、障がいのある人たちの生活においても同じように深刻な現実があることを知らなければなりません。今年も全国のどこかの施設で、職員による虐待事件があったことが報道されると、虐待防止のための研修の強化が、行政や社会から強く求められます。また、毎日のように利用者と向き合っていて職員の立場から、どんな行為や態度が虐待につながるのか、実際に利用者に接するうえで、どこまでが許されるのかを明確に示してほしいという思いがあり、今回の研修テーマが挙げられたのだと思います。

私は、研修のためにつくったレジュメの中で、国語辞典で調べた「虐待」の言葉の意味を示しました。そこには「弱い者に対してひどいあつかいをして苦しめること」とありました。さらに「虐げる」「いじめる」「蔑む」「侮る」「辱める」という関連性のありそうな語句の意味も合わせて確認しました。これらは、他者の人権を侵すような行為や態度を表現するといふ共通点があると思います。そこには、強い立場の者と弱い立場の者があり、強い者が「力」をもって「弱い者」の人権を侵害するという構図があるように思います。

しかしよく考えてみると、私たち人間は、誰でも「力」にアコがれているように思います。生きていくということには、様々な「力」を手に入れようと努力する

ことのような気がします。その意欲によって人間は成長していきます。そして、自分が手にした「力」を他者に示したいと感じるのではないだろうかと思えます。そして、そのために努力する人は尊敬され、「力」を手に入れた人は賞賛されるのではないかと思います。しかし、今の社会では、「強くなる」ということは「弱い者を支配する」ということだという感覚から人権を侵す態度や行為につながっているとは言えないでしょうか。いや、人間の歴史はずっとその繰り返しだったのかも知れません。

キリスト教では、強いのは「神」だけであり、「人」はみんな弱い存在であるということなのですが、この世においては、キリスト教界でも強い立場にいる人ほど「力」によって弱い立場の人を管理したいという誘惑にさらされます。福祉の世界も同じです、大切にしなければならぬのは「弱い立場にいる人」の人権なのですが、「強い立場にいる人」たちは、自分たちの論理に立って考える「福祉」を押し付けてしまっていないだろうかと思えます。

「実るほど頭を垂れる稲穂かな」ということわざがあります。強い人ほど謙虚に、自分の未熟さ、不十分さ、弱さをよく知り、弱い立場の人たちの弱さに寄り添うことができれば、それが「虐待」などの人権侵害の予防につながるのではないかと思います。

平成26年度 小羊学園公開講演会

「小羊学園の事業展開に 山浦俊治はどうかかわったか」

小羊学園の事業展開は、利用者さんと直接関わる職員たちの意欲が原動力だったのではないかと思っています。また、それをよしとされた、山浦俊治先生の事業姿勢があったように思います。当日は3人の先輩に証言をしていただきましたが、ここでは、小羊デイケアホームのはじまりについて、山崎陽司氏にお話いただいた内容を掲載させていただきますことにしました。(理事長)

小羊学園の最初の通所施設 「小羊デイケアホーム」の開設

山崎 陽司

人間の記憶というのは実に曖昧で、自分の都合の良い様に作り上げて覚えていく所があり、今日お話しすることも100%真実かと言うと疑わしい所もあります。当時、書きたいいろいろな文章を再確認しながらまとめてきました。

山浦先生には公私共にお世話になっていたのですが、いろいろお話しすることはあるのですが、今日は小羊デイケアホームの開設あたり、山浦先生から与えら

れた影響という事なので、小羊デイケアホームのことだけに集中してお話したいと思います。



私がこの仕事の必要性を感じたのが、特別支援学校(養護学校)を卒業した人たちが小羊学園に入所して来た事がきっかけです。当時、養護学校を卒業した人の進路としては作業所しかなく、いろいろな意味で作業能力の低い人は受け入れてもらえず、施設に入所するという人がいたことです。今まで家から学校へ通っていた人が、通うところがないからと言って親元を離れ、施設に入所するという現実を何とかしなければならぬと思いました。

それなら、小羊学園が行っている日中活動と同じような活動をするデイサービスを作れば良いのではないかと思い、山浦先生に相談しました。今では新しい事業を行うときに、法人の執行役員会が事業計画を作成し、理事会にはかり承認され担当を決めてという事業展開をするのですが、当時は、特に小羊デイケアホームのような小さな事業は山浦先生との個人交渉で事業が展開していたという記憶があります。

したがって、未だに山崎が小羊デイケアホームを作ったと思っている人がいるかもしれませんが、そんなことはなくて、小羊デイケアホームは、山浦先生の指示を受けながら、社会福祉法人小羊学園の事業展開の中で開設しているということをお伝えいたします。

新しい事業への思い

山浦先生との話し合いの中で、新しい事業の取り組みに対して山浦先生の関わり方は、ご自分が先頭に立って引っ張っていくのではなく、いつも私に「ああしなさい」「ここに行きなさい」「こうしてみたらどうでしょうか」とアドバイスを頂き、それにしながら事業展開してきたと思います。

事業を行う場所について相談すると、小羊学園の作業所が聖隷サビスの隣にあったのですが、その二つの作業室の

片方を使っても良い事になりました。スタッフは小羊学園で働いていて、結婚退職をして、子育てが落ち着いてきた人に声を掛けさせてもらいました。

制度のない中、とりあえず週2日間の日中一時支援を利用しながら、後の日は実費でと、「一つ一つそれでいいですよ」「それでいいですよ」という許可をもらいながら準備してきました。

準備を進めているときに山浦先生に呼ばれました。小羊デイケアホームの必要性について「つのおぶえ」に書いて、「つのおぶえ」の読者に訴えなさいと言われてました。そこで、「今、なぜ生活訓練ホームなのか」という文章を載せさせていただきました。



そして、事業を始める前に、障害児の親御さんがどんなデイサービスを希望し、どんな期待を持っているかを調べな

さい。と言われ、「デイサービスを考える会」を企画しました。スタッフでピラを作り、養護学校に配りにいきました。初めは15〜6人の人が集まればと思っていたのですが、なんと小羊学園の食堂に60人も人が集まりました。山浦先生に挨拶をしていただき、浜松養護学校の先生から卒業生の状況を話していただき、私がこんなデイサービスを計画しているという話をさせてもらい、質問や意見交換が行われました。

その中で、親御さんが抱えている問題の大きさと新しい事業に対する責任の重さを感じ、とにかく頑張らなければという気持ちにさせられました。

問題解決のための出会い

この年に、静岡県単独事業として「重度障害児(者)生活訓練ホーム」という制度ができ、その認可を翌年の平成元年4月に受けるよう準備を進めなさいと指示を受けました。事業の申請など行ったことがなかったので、すぐに浜松市役所に行き担当の方からいろいろ説明を受け、申請書の書き方を一つ一つお聞きするという形で進んでいきました。

認可されても運営費は不足するので、しょうから「小羊デイケアホームを支える会」を作りなさいといわれました。

小羊学園は山浦先生が所属していた遠州教会の人たちが多く支援をしてく

ださっていたので、あなたがやっている遠州栄光教会や品川教会の人に呼びかけてはどうかでしょうかと言われました。

さらに、「つのおえ」が年間10回発行されているので、その発行されていない6月と12月に特別号をあなたが作って、みんなにお配りして支援をお願いしなさいと言ってください。つのおえ特別号「TOGETHERE」を発行する事になりました。

事業申請の中で課題となったのが事業所の面積が足りないという事で、急ぎよ食堂と休憩室、さらにもう一つ作業場の増設をしなければなりません。山浦先生にその事を伝えると、丸北建設に行きなさいと言われ、丸北建設の社長と専務に事情をお話すると、すぐに設計図と見積書を書いてくださいました。

それを持って山浦先生のところに行くくと、国際ソロプチミストの方々から寄付金がもらえるので、山崎さん、もらつて来なさいと言われました。国際ソロプチミストの会長は、代々総理大臣の奥様が就任する事になっていて、総理官邸まで行き、当時の竹下総理の奥様が開催したパーティに出席し、その席で寄付金の目録をもらって来るという体験をしました。

11月に工事が始まりますが、それでも経費がない中での工事ですので、作業場

は土間で、屋根だけをつけて周りの壁がなかったのです。それも丸北建設と相談しなさいと言われ、丸北建設に相談に伺いました。すると社長さんが見かねて、このままでは冬に作業ができないと、無償で作業室の壁を作ってくださいました。

平成元年4月1日に生活訓練ホームの認可をいただき、年間6,556,000円の補助金が交付されることになりました。

それでも運営費は200万円ほど不足していたので、その事を相談すると、小羊学園を支える会で何とかしようと言うのではなく、小羊デイケアホームを支える会で頑張らなさいと言われました。そこで頑張つて、年間200万円を越す寄付金を集めることができました。

新しい展開への導き

数年して、聖隷サービスがデイケアホームの建物を購入したいという話があつて、新しい建物を建築させていただきました。建物を建てるにあたり借入金を行ったのですが、その返済が年間120万円くらいだったと思うのですが、それを小羊学園を支える会で返済をしてくれると思つていたのですが、半分は利用者の親御さんに出してもらおうように相談しなさいと言われました。

新しい建物が完成したのは平成8年3月でした。平成6年12月に入院されていた山浦先生のところへ、新しいデイケアホームの完成図を持ってお見舞いに行ったのですが、その時に「私はもうこの建物を見ることはできません。これからはみんなで頑張らなさい。でも本当に良かったですね」と言つて、明子先生とお二人で喜んでくださいました。

こんな形で、山浦先生からは、相談に行けばいつも指示をいただき、その指示を受けていろいろな所に出かけ、いろいろな人に出会い、本当に多くの人に支えられながら事業が進んだという経験をさせていただきました。

その中で、出会つた多くの人たちに、心からの感謝の思いをもちながら事業展開をしていく事の大切さを教えていただいたと思つています。



それが、小羊学園に戻ってからも、おぞら療育センターに異動した時も、三方原スクエアに戻ってからも、ずーっと私の仕事の姿勢になっているとと思っています。

山浦先生は、よく私にこんな話をしてくださいました。「何か新しい事を始めようと計画したときは、その事が完成したときの姿を夢に描きなさい。それも具体的に、できるだけ鮮明な夢を描き、その姿を持ち続けながら計画を進めなさい。そうすればきっと夢は叶いますよ」と。先ほども話しましたが、ホスピスに入院中、新しい小羊デイケアホームの建物の完成図をもってお見舞いに行ったときですが、「よかったですね。山崎さん、夢が実現しましたね。」と言って下さいました。私は建物のことだけでなく、小羊デイケアホームという働きそのもの、ことを言っておさつたと受け止め、心から「ありがとうございます」と答えました。それが山浦先生からお伺いした最後の言葉になってしまいました。

これからも、小羊学園は、若い職員たちが、利用者のニーズに応える為に、こんな働きをしたいという夢を描けるような、そして、その夢が形となって実現していく様な働きができる法人であって欲しいと願っております。(C)



グループホームの現状を陳情

今年度からの法改正でグループホーム・ケアホームが一元化されたことにより、夜間支援体制の加算見直しがありました。特に障がいの重い人たちが生活するグループホームで宿直体制をとっている事業所が事業費の10%を超える減収になり、大きな波紋が広がっています。また、消防法改正によるスプリンクラー設置基準についても障壁があるのが実情です。小羊学園は「浜松市グループホーム連絡協議会」に加入しています。7月に連絡協議会で城

オリーブ祭りのご案内

日時 平成 26 年 9 月 13 日 (土) 10 時～
 ところ オリーブの樹
 (浜松市浜北区尾野 462-2)
 イベント 模擬店・フリーマーケット・イベント等
 問合せ オリーブの樹 ☎053-582-3415
 担当：鈴木(龍)、古田

ぜひ、遊びにいらしてください!

フェスタつばさのご案内

日時 平成 26 年 9 月 28 日 (日) 10 時 30 分～
 ところ つばさ静岡
 (静岡市葵区城北 117)
 イベント 屋台・フリーマーケット・コンサートイベント等
 問合せ つばさ静岡 ☎054-249-2830
 担当：村上(訓練部)

みなさまのお越しをお待ちしております

内実衆議院議員とお会いし、障がいのある方の地域生活の実情と課題を説明し、国への要望をお伝えしたところ、田村厚生労働大臣と直接お会いし陳情できる機会をセッティング頂きました。8月5日に浜松市連絡協議会の役員および東海地区の知的福祉協会長やグループホーム関係組織の会長と共に厚生労働省に出向き、田村厚生労働大臣に現状の課題と改善策の要望書を提出させて頂きました。田村大臣は真摯に受け止めて下さり、現在協議中であることや関係各省と協議していく旨のご回答を頂きました。(ひまわり管理者 古橋誠)

小羊学園を支える会

2013年度 寄付金報告

6月受付分 154,000円 (19件)
 累計 1,157,580円 (59件)

小羊学園への寄付金振込み先

郵便振替口座 00800-8-107785
 口座名義 社会福祉法人小羊学園
 ゆうちょ銀行 089店 当座預金0107785
 口座名義 社会福祉法人小羊学園

ご希望があれば、郵便振替用紙をお送りいたします。下記へご連絡ください。
 小羊学園を支える会事務局 (鈴木)
 小羊学園本部 ☎053-584-3337

編集後記

連日猛暑と台風の行方が心配な今年の夏。みなさんは「夏」といつたら何をイメージするのだろうか。小生は今年趣味の海潜りは別格として、花火を連想する…。支援センターわかぎの地元浜北区平口でも毎年8月21日に花火大会が行われ、利用者も楽しみにしている。今年は自治会に加入させていただいたこともあり、開催プログラムを自治会長さんが持ってきてくださった。一歩づつ地域の中に溶け込んでいることを実感する。来年は、花火打ち上げ費用に気持ちばかりの協力ができればと思う今日この頃である。

まだまだ暑い日が続きます。どうぞお身体ご自愛ください。(F)